

クラウドの複雑さを緩和する

IT リーダーが考慮すべき 5 つの重要事項

クラウドの管理は容易ではありません。しかも、企業全体でクラウドネイティブフレームワークへの移行が進み、マルチクラウド環境の複雑さが増すと、課題の難しさも増します。

根本的な解決策は、データの複雑さに対処することです。IT リーダー、DevOps チーム、その他の関係者が、適切な機能、柔軟性、拡張性を備えたフレームワークを導入するには、より先進的かつ合理的なデータフレームワークを構築する必要があります。

その実現に向けて考慮すべき重要事項が 5 つあります。



1. セキュリティとサイバーレジリエンスの問題がますます深刻化している

企業が所有するデータが増えることには良い面と悪い面があります。データは新しい機会をもたらす一方で、特に IT チームとセキュリティチームに大きな課題を突きつけます。

クラウドファーストフレームワークに移行するには、リソースとデータを包括的に可視化し、マルウェアをスキャンおよび検出するための着実な方法を確認して、クラウド全体にゼロトラストの原則を適用する必要があります。ランサムウェア攻撃が悪質さを増し、被害額が高騰し続ける今日、サイバーレジリエンスをさらに強化することも欠かせません。

事実: 調査によると 2021 年には世界全体で 6 億 2,330 件のサイバー攻撃が確認され、2020 年から 105% 増加し、2019 年の 3 倍に達しました。¹

戦略: ウイルス対策などのマルウェア防止ソフトウェアではリスクを十分に軽減できません。セキュリティファーストとゼロトラストのフレームワークを構築するには、データフットプリントを削減するとともに、データやリスクに関するインサイトを単一の画面で確認できるようにすることが重要です。



2. データの散在がパフォーマンスとイノベーションに悪影響を及ぼす

すべてのデータを管理下に置くことは最重要課題です。クラウドベンダーが提供する無料のクラウドネイティブツールでは通常、他社のクラウドやさまざまなフォーマットのデータを扱えないため、マルチクラウド環境では特にデータの管理が困難です。

もちろん、IT チームは全体的な複雑さを解消し、データを統合して、管理性とセキュリティを向上させようと取り組んでいます。しかしそのためには、データの負荷を軽減し、適切なデータを適時に利用できるようにするためのフレームワークが不可欠です。

事実: ベリタスの調査によると²、94% の企業がマルチクラウド戦略をすでに採用しています。また、クラウドインフラが当初の予定よりも拡大していると回答したリーダーは 80% にのぼります。

戦略: データが適切な場所に保存され、ビジネスチームが必要なデータを適時に利用することができないと、パフォーマンスとイノベーションに悪影響が及びます。しかし、クラウドベンダーが提供するツールは、データを最大限に活用できるだけの機能を備えていません。適切なユーザーが適切なデータをいつでも利用できるようにするためのフレームワークを構築することが重要です。



3. IT システムとデータフレームワークは企業全体のコストに直接影響する

バックアップと事業継続の体制作りは企業にとって大きな課題です。増分バックアップや重複排除など、特定のタイミングで必要なデータだけをバックアップする効率的なアプローチを取り入れずに、すべてをまとめてバックアップしてしまいがちです。

そうすると、必要のないクラウドリソースに余計な費用を支払い、無用の追加ストレージを調達し、検索時には大量の余計なデータを調べなければならなくなって間接費もかさむことになります。

事実: ベリタスの調査では、データ管理用のクラウドツールに支払っている費用を知って驚いたと回答した割合が 77% にのぼります。²

戦略: IT リーダーや技術リーダーは、可視性と管理能力を向上させるフレームワークを導入するとともに、オートスケール、重複排除、高度なレジリエンスを実現することにより、コスト最適化という企業全体の難しい課題への対応を後押しできます。



4. IT システムにサステナビリティを組み込む

今日、サステナビリティに配慮したシステム設計はミッションクリティカルです。顧客の間でもビジネスパートナーの間でも、サステナビリティに対する企業の取り組みに期待する声が高まり、企業が ESG (環境・社会・ガバナンス) プログラムを策定する動きが進んでいます。そして、ESG プログラムを軌道に乗せるには、データから明確なインサイトを引き出すことが欠かせません。

サステナビリティにはもう 1 つ見過ごせない側面があります。それは、IT リソースやデータを十分に活用できないと、余計な処理能力、ストレージ、ソフトウェアが必要になり、企業全体のコストの増加につながることです。

事実: Gartner 社は、2025 年までにクラウド購入の判断基準トップ 3 にクラウドのサステナビリティが入ると予測しています。³

戦略: サステナビリティは、環境や未来の生活に有益なだけでなく、コストメリットも生みます。さらに、サステナビリティに対する取り組みを基準に企業を評価する顧客が増えているため、収益の増加にもつながります。



5. ビジネスを変革していくにはデータの可視化が欠かせない

AI (人工知能)、ML (機械学習)、IoT (モノのインターネット) を含むデジタルテクノロジーの共通の土台となっているのがデータです。デジタルイノベーションで成果を得るには、IT チームと DevOps チームがデータパイプラインを最適化し、スマートオートメーションを実現できるようにする必要があります。最適なデータフレームワークを設計するには、集中的な戦略と、適切なテクノロジーやツールが欠かせません。

事実: Gartner 社は、2025 年までにフルマネージド型の AI/ML 対応クラウドサービスの導入率が 100% に達すると予測しています。⁴

戦略: 業界リーダーは、戦略と戦術の両面でメリットをもたらすフレームワークを構築してデータを活用し、競争力を強化しています。[自律型データ管理](#)が可能な AI/ML 対応のクラウドサービスを追加すれば、マルチクラウド環境でセルフプロビジョニング、自己最適化、自己修復を活用したデータ管理を実現できます。



まとめ

企業にとってデータは最も重要な資産です。データを効果的かつ効率的に管理することはビジネスの成功に不可欠です。データ管理フレームワークを適切に設計すれば、コストの削減、イノベーションの推進、重要なビジネス目標の達成につながります。

データを保護しながらデータ管理戦略を最大限に活用する方法について詳しくは、こちらをご覧ください:

www.veritas.com/solution/cloud-data-security

¹ SonicWall 社「SonicWall Threat Intelligence Confirms Alarming Surge in Ransomware, Malicious Cyberattacks as Threats Double in 2021 (ランサムウェアが驚異的な急増を見せ、2021 年には悪質なサイバー攻撃が 2 倍に)」(2022 年 2 月 17 日)、<https://www.sonicwall.com/news/sonicwall-threat-intelligence-confirms-alarming-surge-in-ransomware-malicious-cyberattacks-as-threats-double-in-2021/>

² ベリタス/Vanson Bourne 社「脆弱性に対する遅れ」、https://www.veritas.com/content/dam/Veritas/docs/reports/GA_ENT_AR_Veritas-Vulnerability-Gap-Report-Global_V1414.pdf

³ Gartner 社「Gartner Says Three Emerging Environmental Sustainability Technologies Will See Early Mainstream Adoption by 2025 (2025 年までに導入が進むと考えられる新しい 3 つの環境維持テクノロジー)」(2022 年 4 月 21 日)、<https://www.gartner.com/en/newsroom/press-releases/2022-04-21-gartner-says-three-emerging-environmental-sustainability-technologies-will-see-early-mainstream-adoption-by-2025>

⁴ Gartner 社「Gartner Identifies Four Trends Driving Near-Term Artificial Intelligence Innovation (近い将来の AI イノベーションを促進する 4 つのトレンド)」(2021 年 9 月 7 日)、<https://www.gartner.com/en/newsroom/press-releases/2021-09-07-gartner-identifies-four-trends-driving-near-term-artificial-intelligence-innovation>

ベリタスについて

Veritas Technologies はデータの可用性および保護のグローバルリーダーです。複雑化した IT 環境においてデータ管理の簡素化を実現するために、Fortune Global 500 の 87% を含む、先進企業 50,000 社以上が、ベリタスのソリューションを導入しています。ベリタスのエンタープライズ・データサービス・プラットフォームは、お客様のデータ活用を推進するため、データ保護とデータリカバリのオーケストレーションを実現して、ビジネスに不可欠なアプリケーションの可用性を常に確保し、複雑化するデータ規制対応に必要なインサイトを提供します。ベリタスのソリューションは信頼性とスケーラビリティに優れ、500 以上のデータソースと 60 のクラウドを含む 150 以上のストレージ環境に対応しています。ベリタステクノロジーズ合同会社は、Veritas Technologies の日本法人です。

VERITAS™

〒107-0052 東京都港区
赤坂 1-11-44
赤坂インターシティ 4 階
www.veritas.com/ja/jp

各国オフィスとお問い合わせ先については、弊社の Web サイトを参照してください。
www.veritas.com/ja/jp/company/contact